

b. 現地調査の成果

(1) 遺構の状況 (第5図・第6図)

本調査地の北平古道は字境で、東が豊岡字北平、西が字上ノ原である。現況測量調査、金属探知機調査、トレンチ調査を実施した。本古道は現状で平面長431.9m、幅1.5m～2.1m。標高31.3m～94.1mの間にあり比高は62.8m、平均斜度8度～9度程度の坂道である。聞き取り調査では、近年に軽トラックが通れる程度に少し拡幅したとのことであった。本道は丘陵斜面を掘り抜いた両側が高崖になっている断面U字形のいわゆる凹道で、雨天時には排水路の役目もはたす。地面には黄褐色粘土土が露出し、周囲の岩石なども流れ込んで速歩では歩きにくい。

トレンチ調査は坂上位の「豊岡尋常小学校跡地」西側下部分に長31.4m、1.6m～2.3mで実施した。表土下は黄褐色粘質土～明赤褐色粘土層、軟岩地山層で、遺物が多く出土した。

(2) 遺物の分布状況 (第6図～第8図)

葉莢・小銃弾 葉莢は少ないが、学校跡地から上位に分布する。小銃弾は古道内とその周辺斜面に分布し、古道内で標高71mまで、周辺で標高48mまで確認され、標高68mあたりを境に大きく2カ所に分かれる。68mより上位には集中部が学校跡地西側下部分にあり、南の崖北面の集中は田原城跡・田原寺跡調査地北斜面の小銃弾集中部と一連のものだろう。68mより下位には西側斜面標高57m付近に長径20m、高さ3mほどの楕円形の小丘があり、小銃弾がやや多く霰弾子185も分布する。エンフィールド銃弾発砲時変形の175と176や、78～180、小径銃弾182もこの小丘の南にやや集中する。

台地下の北から政府軍は古道を上り、小丘等を胸壁として仰攻し、学校跡地にあったという薩摩軍陣地や田原城跡陣地と対峙したのだろう。エンフィールド銃弾は仰攻に反撃したものかもしれない。



参考図 北平古道と周辺の古道 (1/10,000) 明治33年陸地測量部地図より



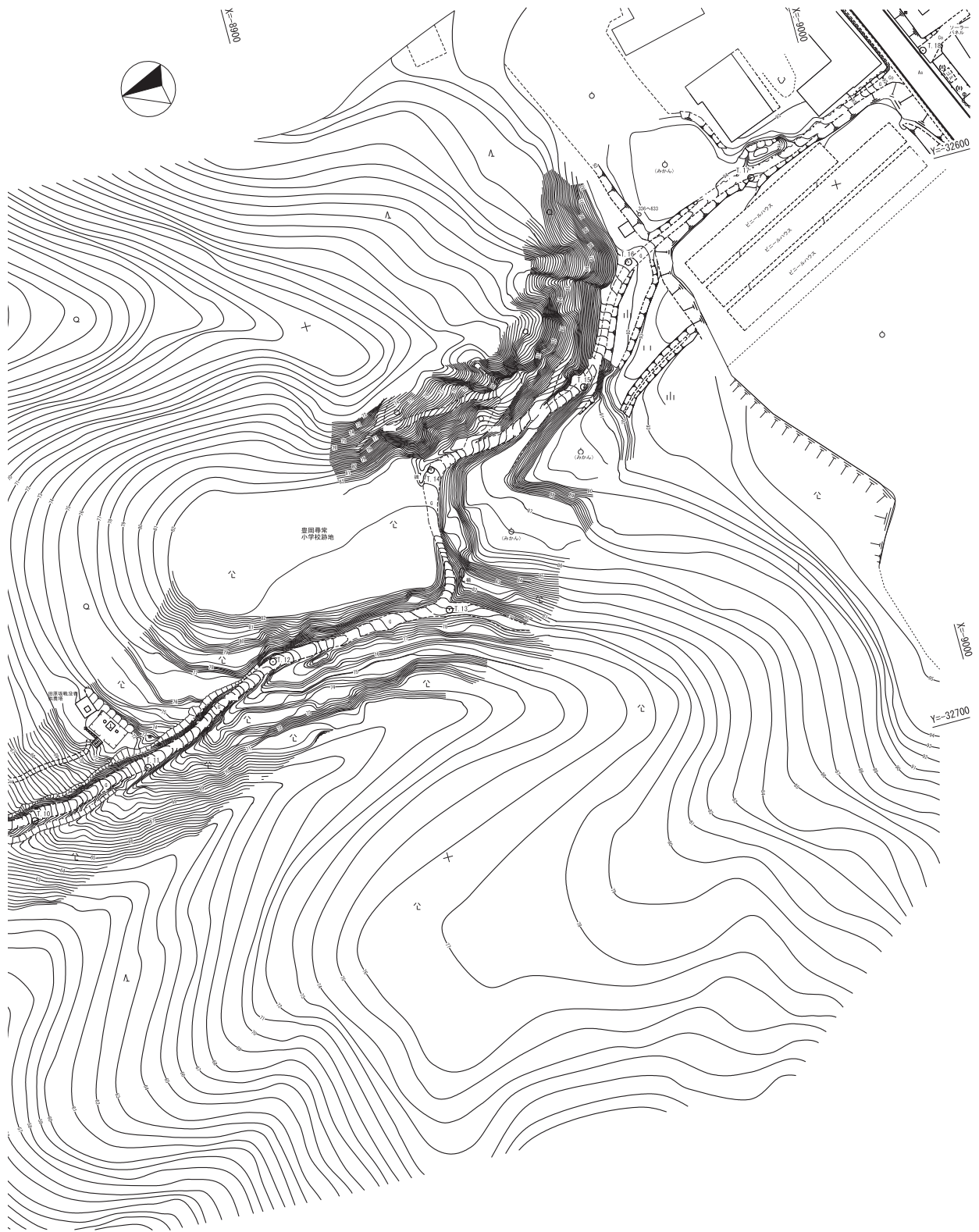
坂下位の標高48m付近より上を見る



坂中位の標高78m付近より上を見る



第5図 北平古道調査地 全体図(縮尺任意)





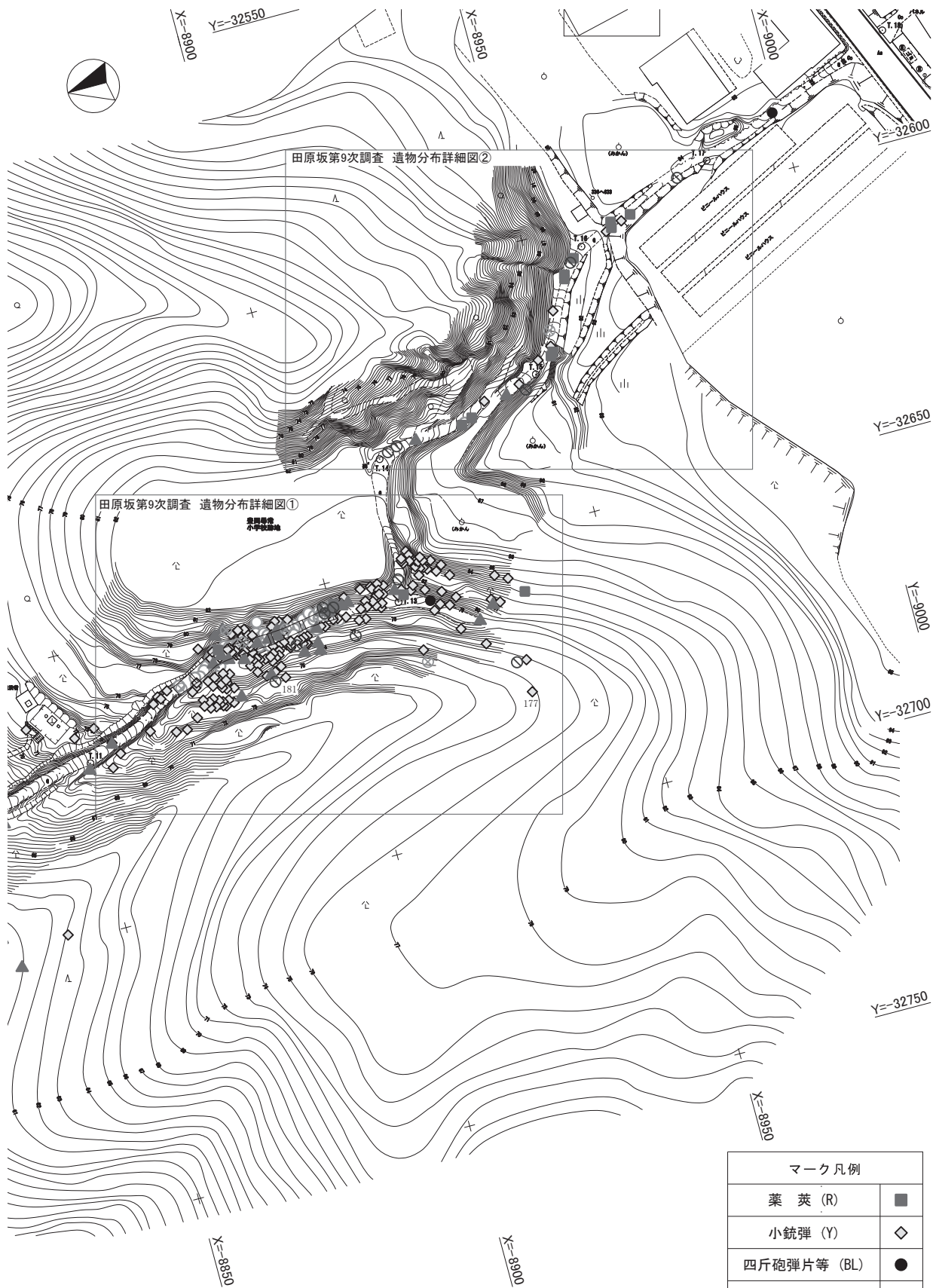
坂上位の標高90m付近より下を見る



坂下位の標高46m付近より下を見る

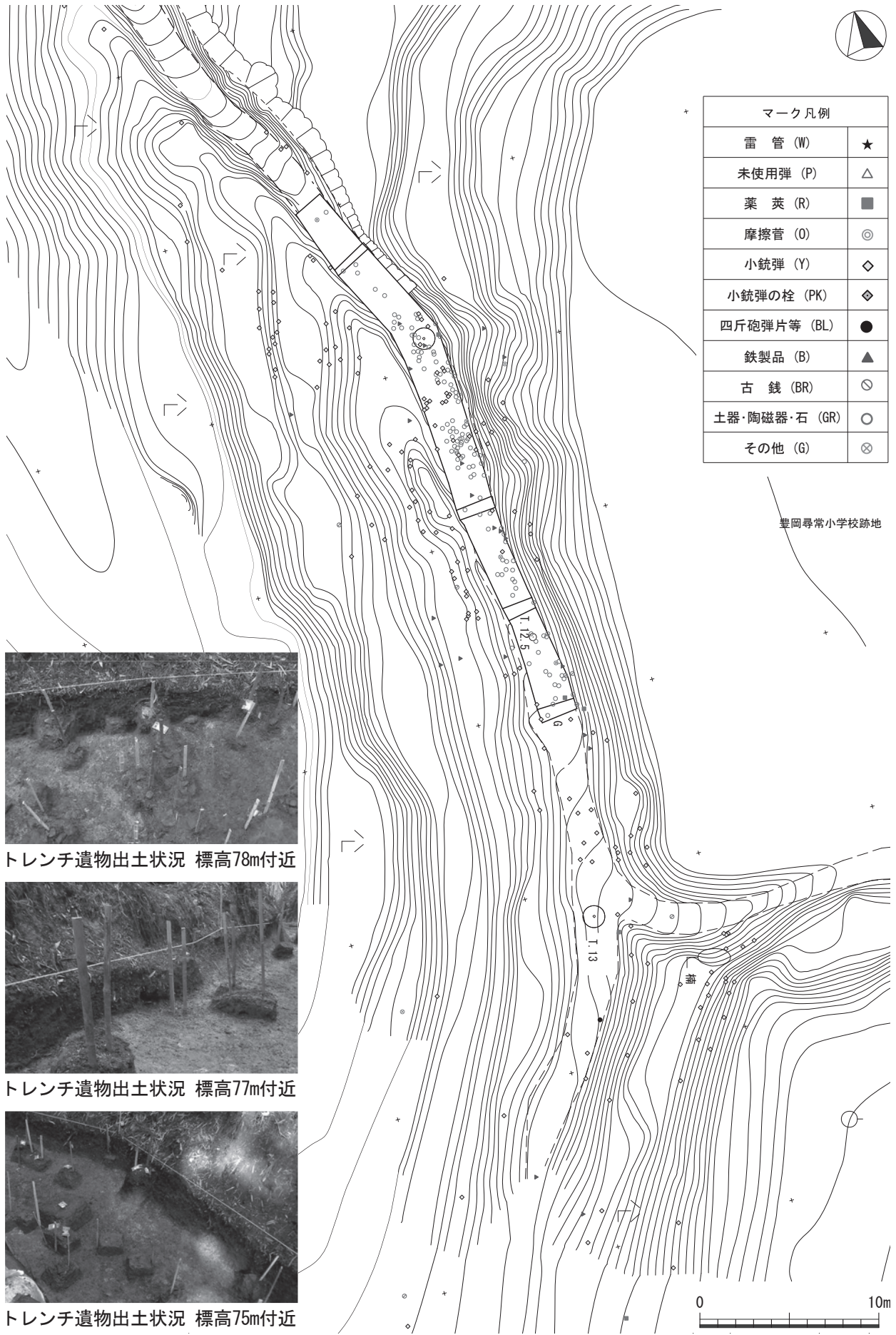


第6図 北平古道調査地 遺物分布図 (1/1,000)

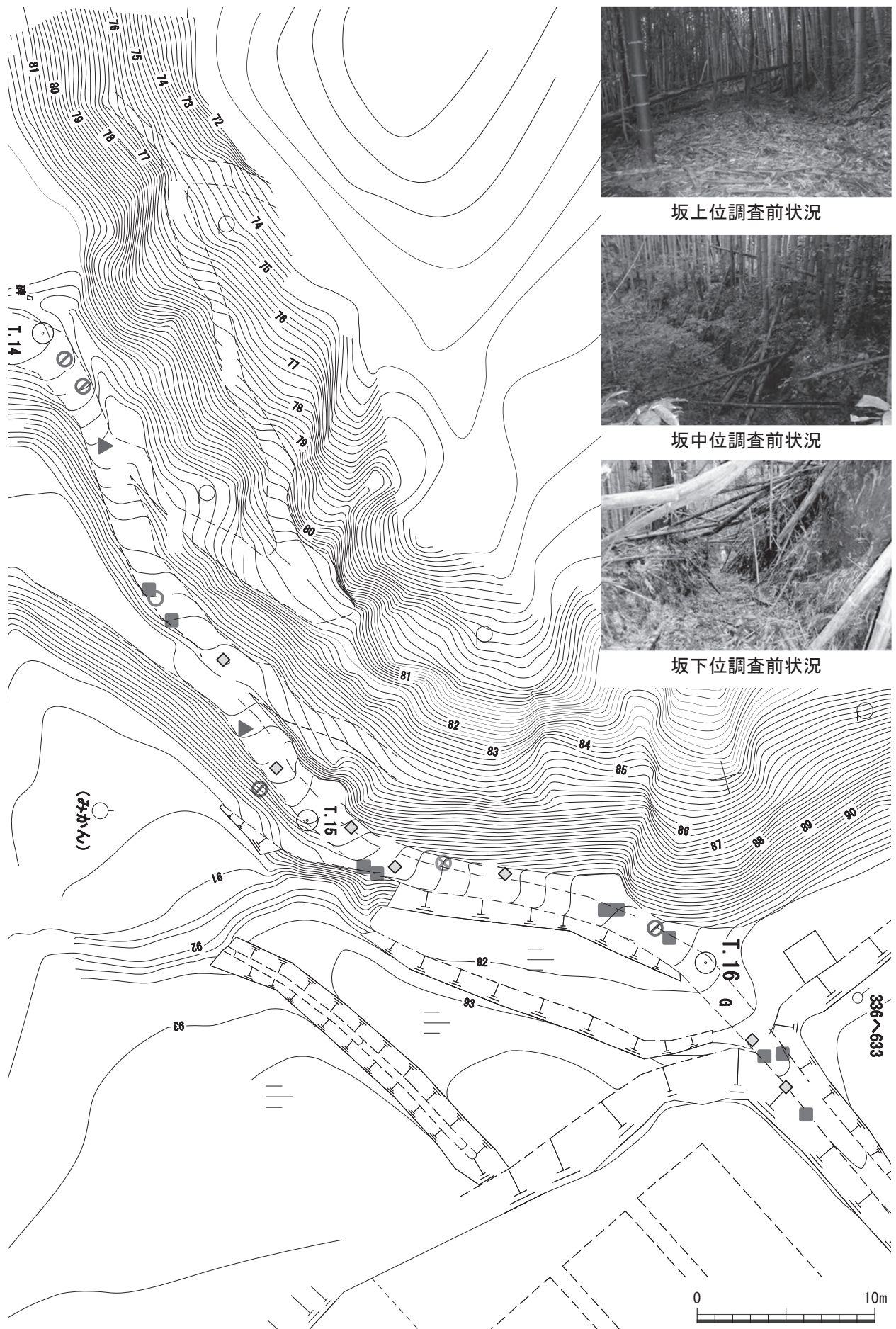


マーク凡例	
葉 莢 (R)	■
小銃弾 (Y)	◇
四斤砲弾片等 (BL)	●
鉄製品 (B)	▲
古 銭 (BR)	⊙
土器・陶磁器・石 (GR)	○
その他 (G)	⊗





第7図 トレンチ位置図及び遺物分布詳細図① (1/300)

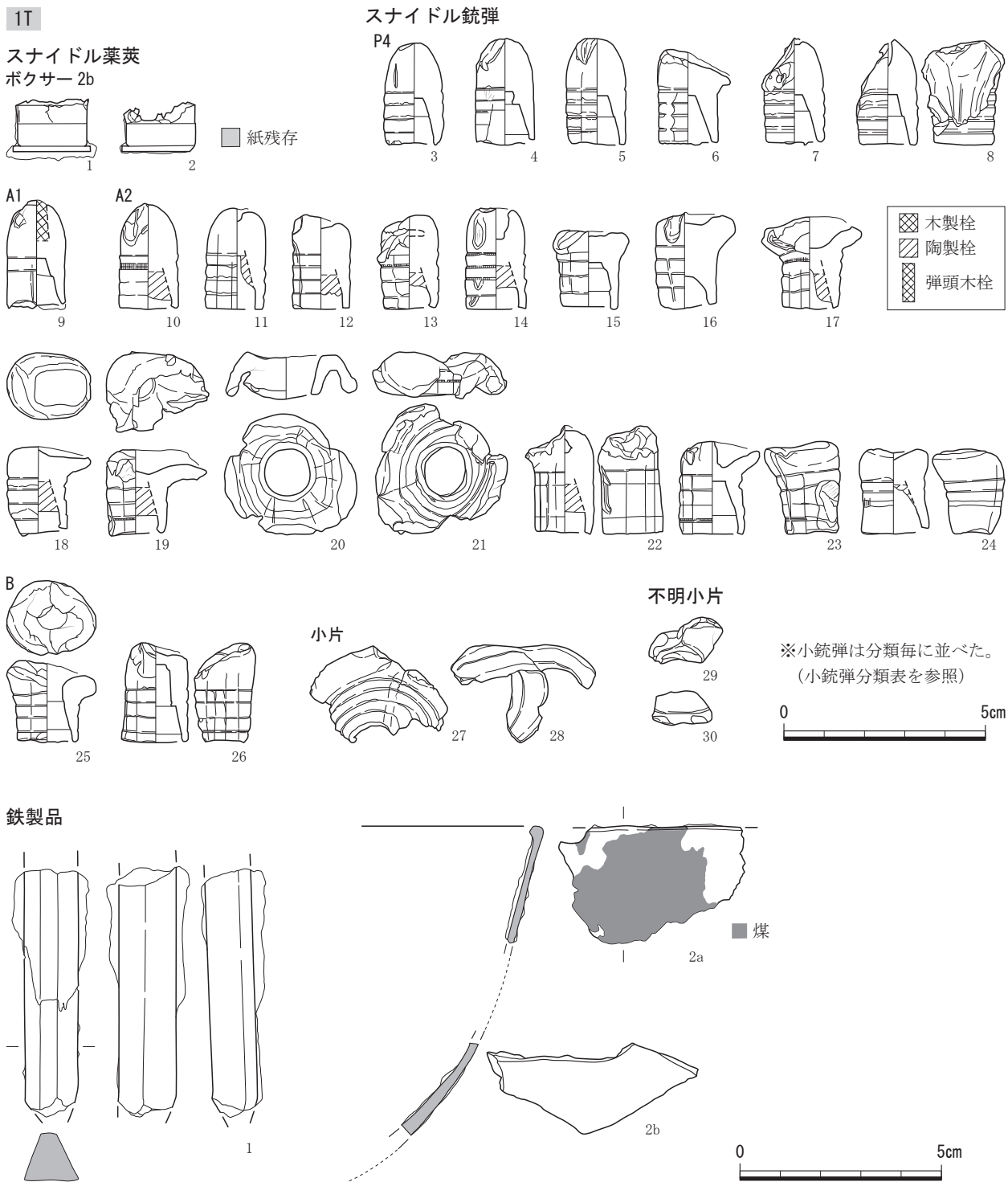


第8図 遺物分布詳細図② (1 / 300)

c. 遺物

(1) 西南戦争関連遺物 (第9図～第12図)

薬莖・小銃弾 トレンチ出土遺物も併せて記す。薬莖はいずれもスナイドル薬莖ボックス 2b タイプで、底蓋しか残らず抽筒板も欠損するものがあり遺存状況は悪く、移動があるようだ。小銃弾は合計 212 点で、トレンチ出土スナイドル銃弾 P4・6 点、A1・1 点、A2・15 点、B・2 点、小片 4 点の計 28 点。金属探知機調査スナイドル銃弾 P2・1 点、P3・2 点、P4・23 点、A1・3 点、A2・115 点、B・22 点、小片 8 点の計 174 点、エンフィールド銃弾 a2・2 点、b1・4 点、小径銃弾 2 点、不明小片 2 点の計 184 点で各種類があるのは他調査地と同様の傾向である。

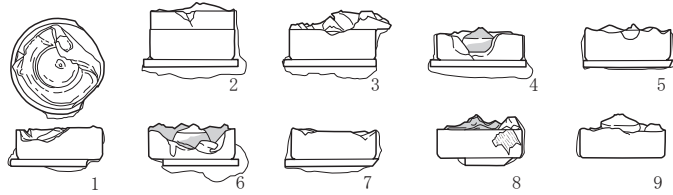


第9図 トレンチ出土遺物

スナイドル銃弾 P4 タイプ 29 点は他調査地に比して多く、比率も 15% を占め多い。A2 タイプヒモ状展延の多くでは、弾頭空洞と円台孔の境の仕切りは外れているものが多いが、132、140、141 は仕切りがそろって残存する。エンフィールド銃弾 175 と 176 は発砲時変形の典型例で、175 は裾部がちぎれて弾頭だけになったもの、176 は裾部がちぎれる寸前。両弾とも目標命中は期待できないのではないか。

砲弾 185 の霰弾子 1 点だけが、後述する明治 13 年熊本新聞に、薩摩軍陣地になった豊岡尋常小学校が霰弾のため焼失したとの記事があり、これに関連する遺物の可能性がある。

スナイドル薬莖 ボクサー 2b



■ 紙残存

▨ 木製栓
▧ 陶製栓
▩ 弾頭木栓

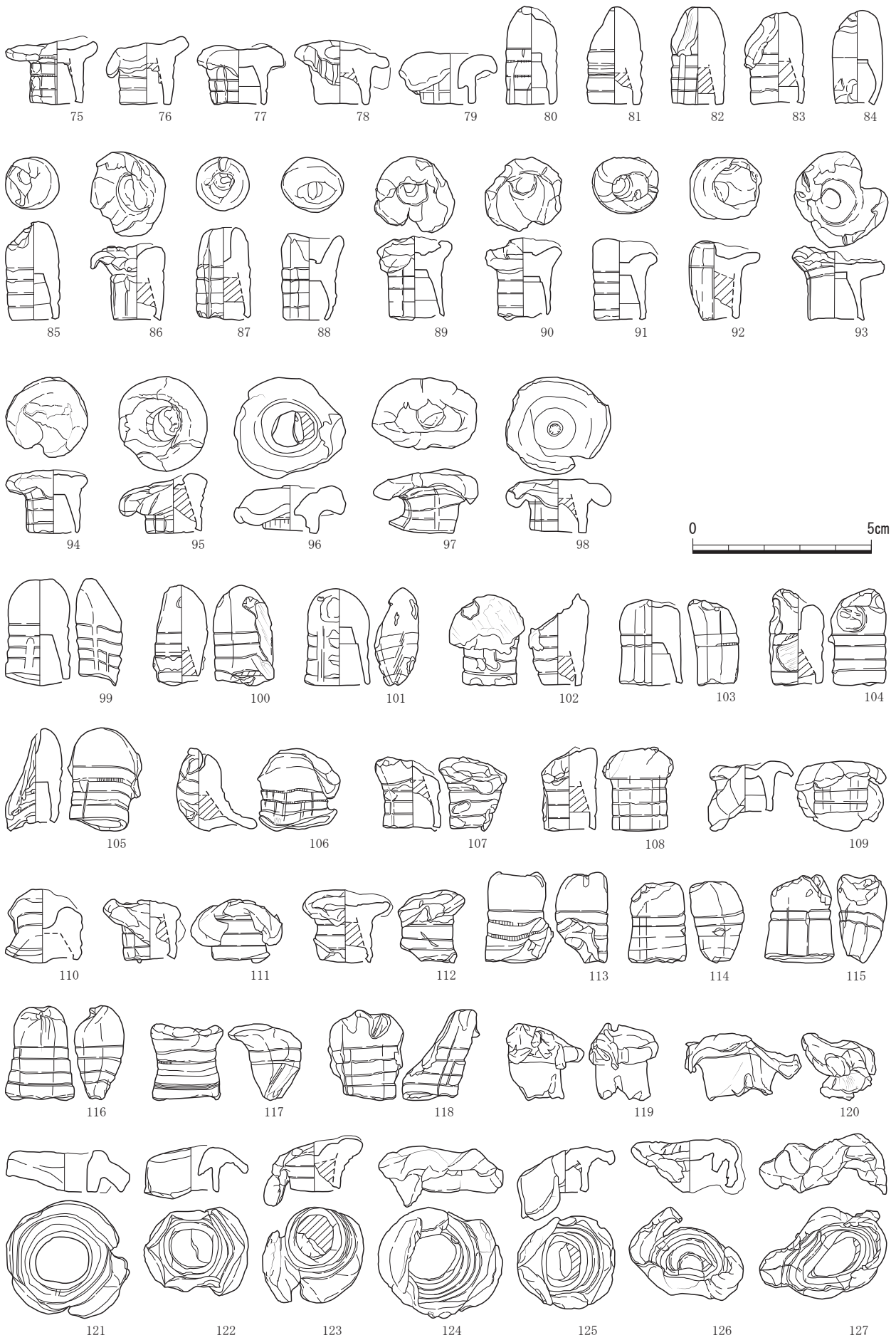
※小銃弾は分類毎に並べた。
(小銃弾分類表を参照)



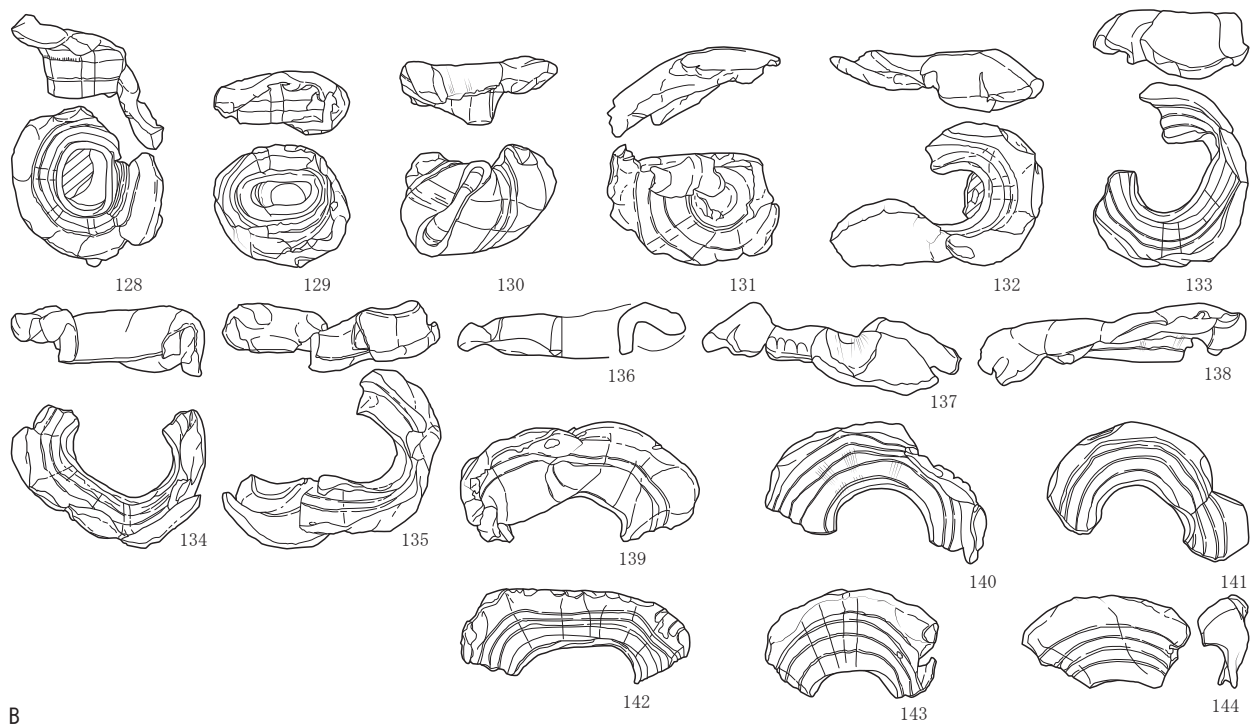
スナイドル銃弾



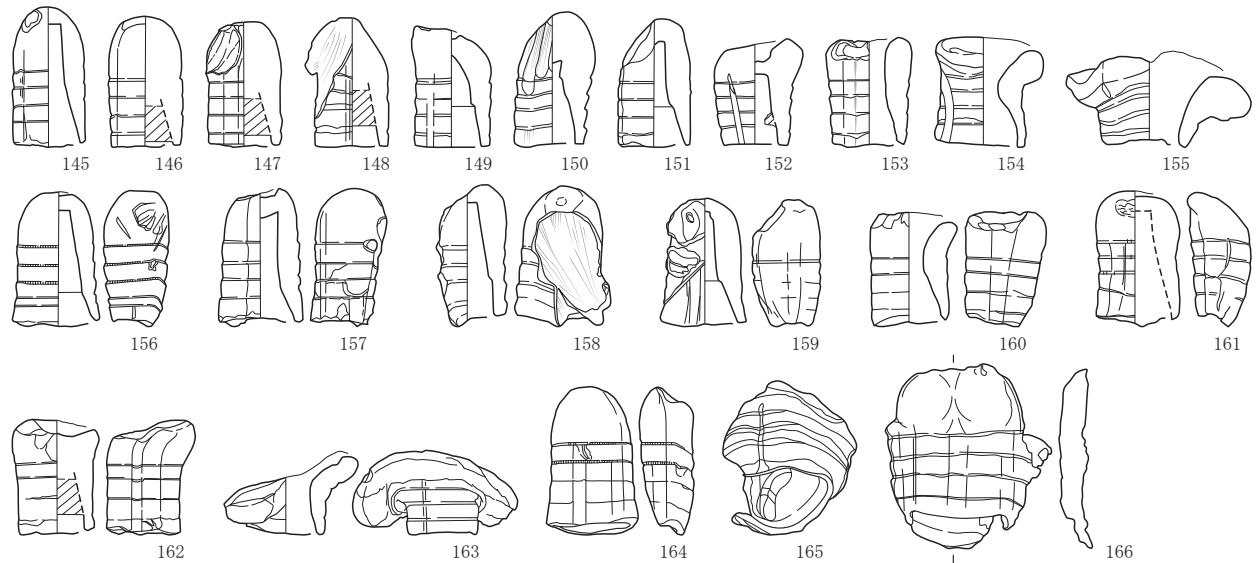
第 10 図 金属探知機採集遺物 薬莖・小銃弾 1



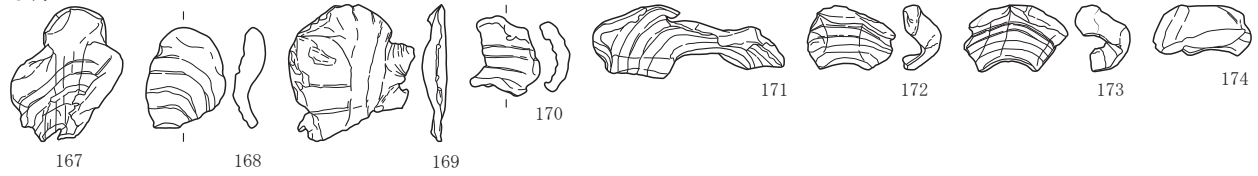
第 11 圖 金屬探知機採集遺物 小銃彈 2



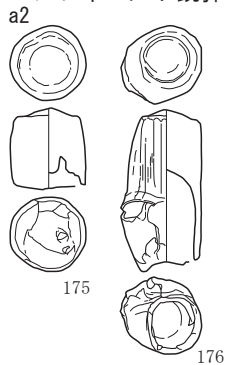
B



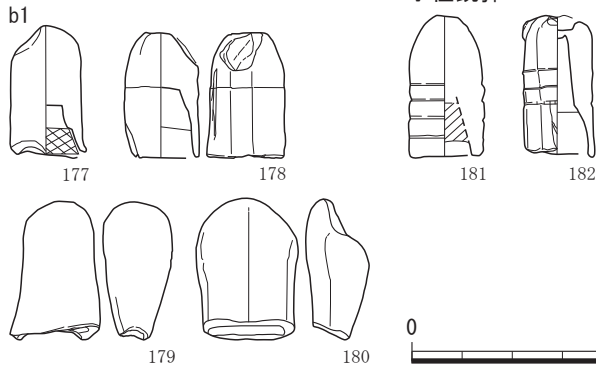
小片



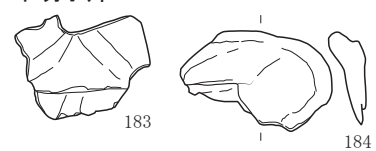
エンフィールド銃弾



小径銃弾



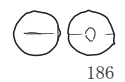
不明小片



四斤砲弾霰弾子



不明



第 12 図 金属探知機採集遺物 小銃弾 3・四斤砲弾霰弾子

(2) その他の遺物

鉄製品 (第 13 図 1～第 14 図 22)

1～3は蹄鉄である。4～13は工具である。4は鉋、5は鑿とみられる。6～13は楔で、主に側辺の形状に着目した全

報告No.	6	7	8	9	10	11	12	13
全体形	長方形			長台形 (先端に向けて細くなる)			T字形	
頭部	折曲げ	平坦	不明	折曲げ	不明	平坦		貼付け
先端部	直線	—	二股	丸		—		丸

体形や頭部・先端部の形状から仮に右表のように分類する。なお、13は長方形の頭部を溶接したもので、工具ではなく、調度具などに使用された可能性も高いことを付記しておく。14～16は和釘である。14は皆折釘で、頭部の内角は丸味が無く直角に曲がっており、これは鑿で刻み目を入れた面を谷折りしたことを示している。17～22は不明鉄製品である。

銭貨 (第 14 図 23～29)

23～28は西南戦争以前の鑄造である。23～26は寛永通宝、27は文久永宝、28は竜1銭銅貨で、28背面の竜文は所謂角鱗である。29は大正十年銘の桐1銭青銅貨である。

土器・陶磁器類 (第 14 図 30～32)

30は胴部が角張る須恵器壺である。器表面の色調は外面が赤褐色、内面が橙色味を帯び、焼成は良好である。荒尾産須恵器の特徴といえる。この点を重視すれば、8世紀後半～9世紀初頭に位置付けられよう。31・32は化学コバルト型紙摺りの磁器染付で、胎土から肥前系の産品と考えられる。西南戦争当時に使用されたとして齟齬は無いものである。

石製品 (第 14 図 33)

33は粘板岩製石板である。方眼区画の細線刻は認められない。次項(瓦の報告)で述べるように、本調査区近くには明治・大正期に小学校があり、これに関連する可能性を指摘できる。

銅製品・瓦ほか (第 15 図 34～48)

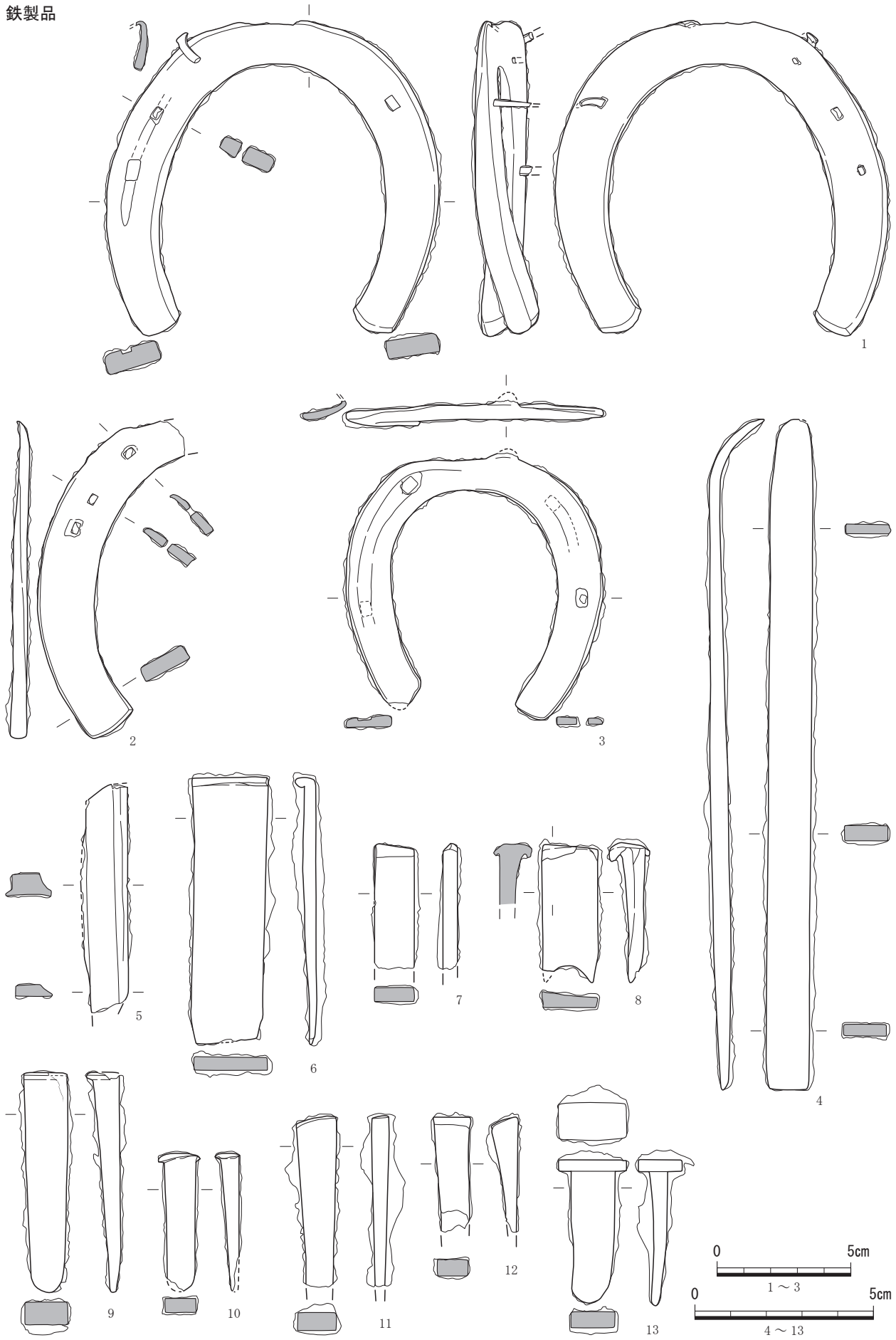
34は銅製釦である。表面・側面とも無文で輪足はロウ付けしている。警視隊制服の釦の可能性はある。35は径9.6～9.8mmの鉛弾である。火縄銃1匁5分玉(井上流)の可能性を指摘できる。

36～48は江戸時代以降の燻瓦である。総数120点のうち13点を図掲している。瓦が多いことは本調査区の特徴といえる。調査区上部の平坦地には、明治9年(1876)4月～大正12年(1923)5月に豊岡小学校(明治40年「田原西部尋常高等小学校」と改称)が存在した。校舎は西南戦争の兵火により焼失し、戦後の明治13年(1880)に再建され、その際に瓦葺きとなっており、瓦はこの時以降のものと判断できる。36～40は目板棧瓦である。うち36は軒目板軒瓦で、平部の唐草文は先端が太く株状を呈する。軒瓦はこの他に41・42がある。41の唐草文は36と同様で、先端が株状を呈する。42の中心飾の巴文は肥厚し、各巴頭の下端が接している。これらは近代の特徴であり、上記の実年代観に矛盾しない。43～45は平瓦あるいは棧瓦平部である。46は丸瓦あるいは棟瓦、47は袖瓦の袖部(垂下する部分)である。48は形態不明の細片であるが、釘穴が認められることから図掲した。釘穴が認められるのは本例のみである。以下、未報告のものを含む本調査区出土瓦全120点について形態別(①～⑥)に点数を示す。

①目板棧瓦25点(目板部が認められる) ②平瓦あるいは棧瓦平部62点(反りが認められる、側面が斜めに切られている) ③丸瓦あるいは棟瓦1点 ④袖瓦1点 ⑤不明a19点(小片で明確な反りが認められず②に加え板塀瓦などの可能性も考慮される) ⑥不明b12点(細片、平坦)。

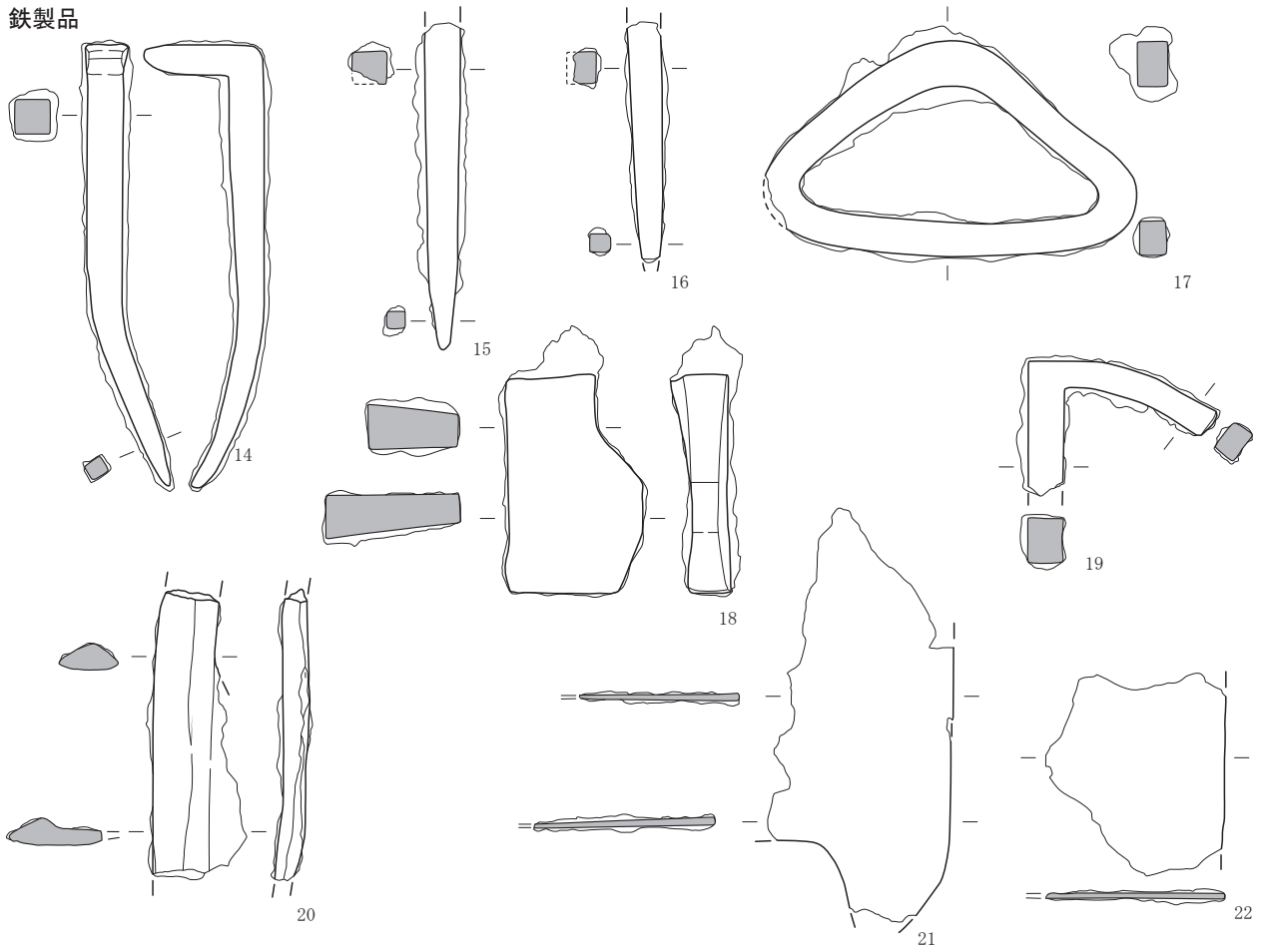
なお、波形の棧瓦や商標刻印・平部凸面の条線が認められるものは無い。以上、出土の瓦には本瓦葺きの瓦と判断できるものは無く、目板棧瓦葺きであった可能性が高い。このことを前提とすれば、46は丸瓦ではなく棟瓦であろう。また、袖瓦が見られることから、校舎の屋根は少なくとも寄棟ではなく、恐らくは切妻造りであったと想定される。

鉄製品

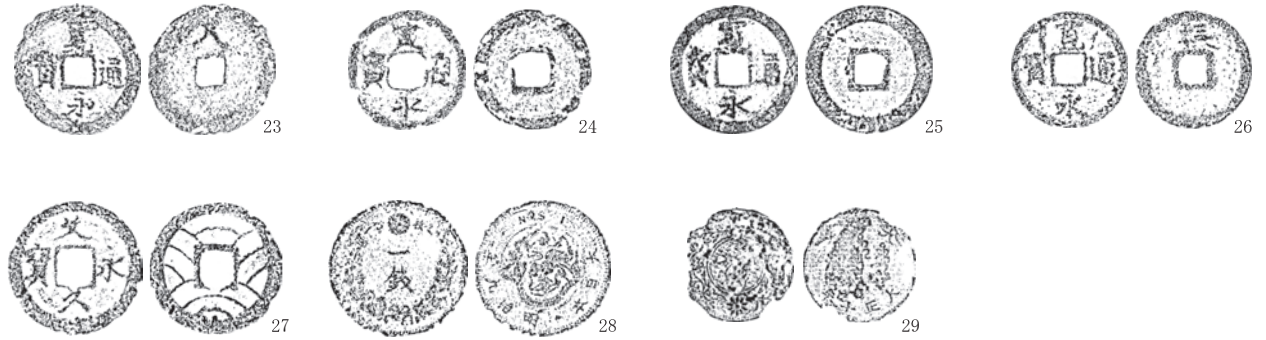


第13図 その他の遺物 - 鉄製品1

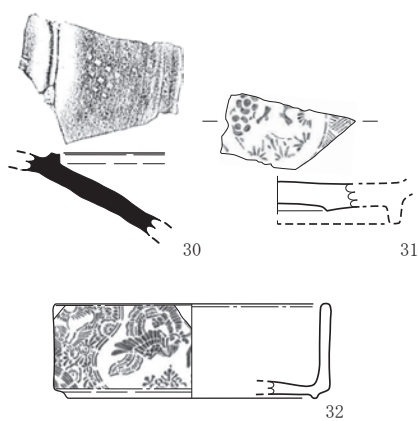
鉄製品



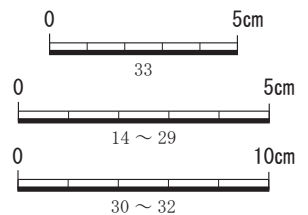
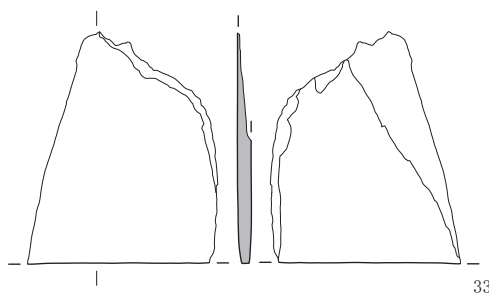
銭貨



土器・陶磁器類



石製品



第14図 その他の遺物 - 鉄製品2, 銭貨, 土器・陶磁器類, 石製品

銅製品・瓦ほか



第15図 その他の遺物 - 銅製品・瓦ほか

北平古道調査地出土の瓦の型式

本調査地出土の瓦、特に目板椽瓦について特記する。前述のように、瓦は戦後の明治13年（1880）に再建された豊岡小学校の瓦と判断される。以下、豊岡小学校の略史を列記する（植木町田原小学校1988）。○明治9年（1876）4月、開校。○明治11年（1878）7月、付近の平原小学校と合併。○明治40年（1907）1月、田原西部尋常高等小学校と改称。○大正12年（1923）5月、田原東部尋常小学校との合併に伴い、富応に移転。

西南戦争時の兵火により焼失し、後の明治13年（1880）に再建された際に瓦葺きとなったことについては以下の記録がある。

明治13年9月3日付の熊本新聞(第766号)に「賊の根據となり霰弾の爲に碎け終に一場の灰と成れり」、「先月開校せしか日々昇校生徒ハ八拾余名に至れり」とある。他、地元民の談話録に「北寄りに瓦葺き二階建ガラス窓二教室…東に鍵の手に平屋建瓦葺きのやゝ広い室があり」、「早くに瓦になったのは西南役の苦い経験によったもの」（三城・勇1981）とある。小学校を薩摩軍が占拠し、政府軍の攻撃により校舎が焼失したこと、その反省から瓦葺きとなったことが判る。

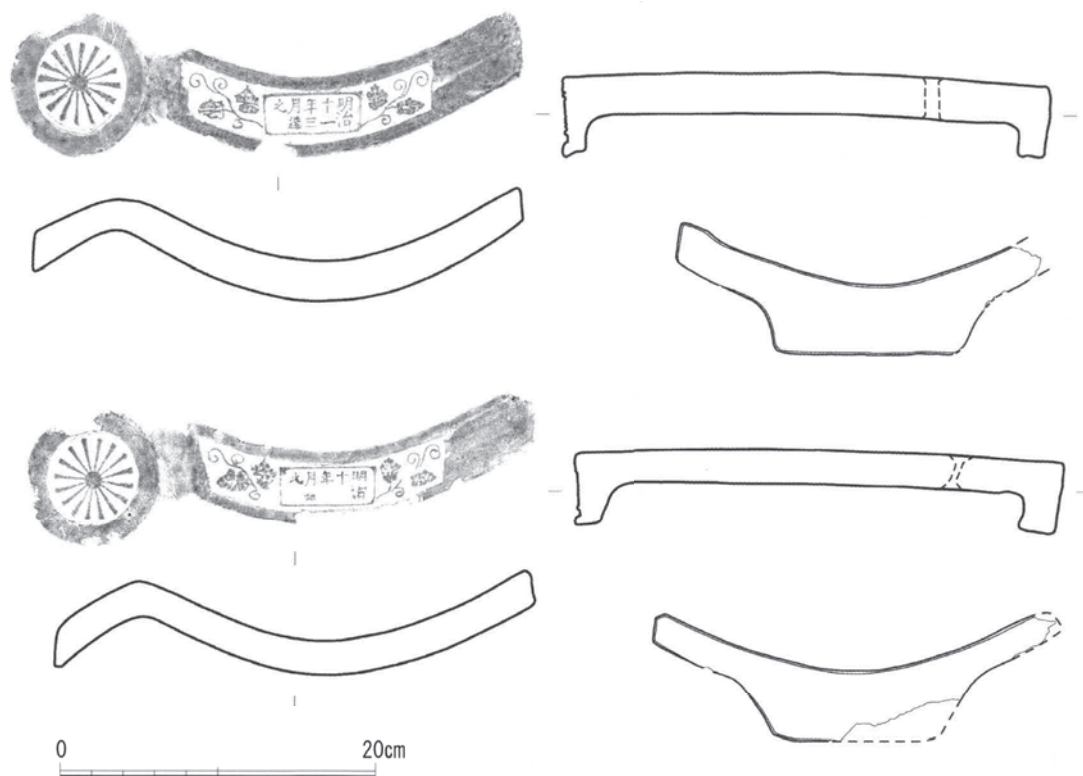
以上から、出土瓦はいずれも明治13年以降のものである可能性が高く、使用されたのは前述のように主に目板椽瓦である。目板椽瓦は江戸時代における熊本地方独自の形態で、紀年銘資料では熊本市川尻町明善寺の「元禄十うし土山三介」（1697）銘のものを最古とする（矢野1977）。熊本城の出土事例では、軒目板椽瓦の軒平部と同文様の軒平瓦に「元禄七年」

○山本郡豊岡村ハ元田原村より天然叢書
の地ふれば丁丑の亂兩軍勝敗の衝と成り
山林を爲し楮く民屋ハ灰燼に委たり小學
校と田原坂の上に有しより初め賊の根據
となり霰弾の爲に碎け終に一場の灰と成
れり元貧村へ再興乃力なく隣村平原學
校と合併して爰ハ二三霜と経たりしか峻
阪小川有て兒童の昇校に艱み自ら怠校す
るを憫れみ學務委員坂本次平關辰次郎吉
川島彦田中宗五郎官村清五郎谷口次吉等
力を合せ復校の議を發し當夏校舎を新築
せり此校ハ元千圓余乃資金あるも是を用
ひて後來乃維持に妨あらんと新に寄附
を倡ひ一時百五十余圓の金を募集し先月
開校せしか日々昇校生徒ハ八拾余名に至
れ一時盛大の觀あり近來所々の學校ハ衰
微乃聞へ而已る中には殊勝あり畢竟學
校委員等注意によるからん

熊本新聞 明治13年9月3日付(第766号)の記事



豊岡小学校跡の現状



※ 参考文献（熊本市 2022）より転載

熊本城跡の「明治十一年銘造之」銘棧瓦

の刻印があることから、熊本城における目板棧瓦も 17 世紀末には発生していたと考えられている（美濃口 2020）。そうした江戸時代以来の伝統的な形態の瓦が豊岡小学校の屋根に葺かれていたのである。これには周辺の既存の瓦を集めてきて葺いたものがある可能性も否定できないが、前述のように「瓦葺き二階建」、「平屋建瓦葺きのやゝ広い室」とあって多量に葺かれていたことを考えると、主に明治 13 年以降、新規に生産されたものと考えられる。

次に、本調査区の出土瓦の対比資料として熊本城跡の瓦に注目する（熊本市教委 1999・熊本市 2022）。軒平部に「明治十一年三月造之」（1878）の刻印がある軒棧瓦である。うち、熊本博物館収蔵の本丸地区採集品には「第六師団旧陸軍法務部」の注記があり¹⁾、軒丸部の瓦当文様が旭日文であることから明治陸軍が発注して作らせたことが判る。さらには、刻印の明治 11 年が西南戦争の翌年であることから、これによって焼失した天守や本丸御殿（本営）などに代わって建設された熊本鎮台の本部建物に葺かれたものと考えられる。目板が無い通常の形状の棧瓦であり、このことは、近代になって瓦の主要供給地（熊本県外のものを含め）が変わった可能性も考えられるが²⁾、江戸時代からの在地の系譜によらない形態である点が特筆される。本例には近代瓦の特徴とされる商標刻印・平部凸面の条線・釘穴は認められず、紀年銘（明治 11 年）を勘案すれば、その初期の型式と考えられる。また、後端には引掛が設けられており、これは当時としては新規の発明である（金子 2018）。地方とはいえ、国家機関である鎮台の建物に用いられた瓦は、近代において汎用され、また新規の型式であったと評価できよう。

翻って、本調査区の出土瓦は、明治 13 年以降のもので実年代としては熊本城資料より後出するものの、江戸時代以来の目板棧瓦で、引掛が認められるものも無い。このことは、新規の技法導入が進んでいない地元の瓦工により生産された可能性を示唆している。豊岡小学校がある山本郡における江戸時代の瓦生産は、天明 6 年（1781）、平島村の両七が願い出て許可されたことに始まる（植木町 1981）。明治 5 年～17 年頃（1872～1884 頃）作成の『山本郡村誌』には、周辺における瓦生産地として以下が挙げられている（圭室 1960）。これら生産地の瓦が豊岡小学校に葺かれたのではないかと考えられる。

○ 鞍掛村「物産…瓦三万枚」、「民業…瓦焼職一戸」。 ○ 平原村「物産…瓦一万二千枚」、「民業…瓦焼職一戸」。 ○ 仁王堂村「物産…瓦一万枚」、「民業…瓦焼職一戸」。

なお、伝統的な形状を採りながらも、本調査区出土軒目板棧瓦 36 などの平部の唐草文は先端が太く株状を呈しており、これは近代瓦の特徴である。新規の技法がまずは文様において取り入れられ、その後、漸移的、段階的に変化することを示す過渡的な型式とみられる。これは、近代初期の磁器染付の供膳具が、端反碗・小丸碗など江戸時代以来の器形を保持しながらも、絵付けにおいては化学コバルト顔料や型紙摺りなど新規の技法を取り入れ、漸移的に変化していく様と同様であろう。

以上、本調査区の出土瓦は明治 13 年以降に生産され、主体となる棧瓦は江戸時代からの在地系譜の目板棧瓦であり、対して、熊本城跡の明治 11 年銘の瓦は近代において汎用され新規の技法を採用した目板の無い引掛棧瓦であること、すなわち瓦の型式観と実年代とが逆転していることに注目した。その要因について以下 2 点を挙げる。一つには生産地域によって新規の技法導入が異なっていたと考えられる。調査地周辺の山本郡は辺陬にあって建物における近代化の進行が遅く、これに応じて瓦生産についても新規の技法導入が遅れたのであろう。今一つは、発注する工事主体の事情が反映されたと考えられる。熊本鎮台では近代の国家機関に相応しい建築様式が採用され、瓦についてもこれに応じた新来の型式が早くに採用されたのであろう。

〔註〕

- 1) 第六師団は熊本鎮台を母体に明治 21 年（1888）に編成された部隊名称であり、瓦の銘にある明治 11 年（1878）当時は無かった。
- 2) 熊本城の瓦は、江戸時代のものは藩領内の益城郡土山・託麻郡小山で生産されたものであったが、近代のものには「筑後／柳川／散田」・「筑後／山門郡／川北村」などの商標が刻印された柳川瓦が多く見られる。他に「肥後宇土駅通／山内工場製」刻印の瓦も見られる。

〔参考文献〕

植木町立田原小学校 1988 『移転改築記念誌』

植木町 1981 「植木町年表」『植木町史』

金子 智 2018 「江戸・東京の瓦にみる幕末・明治一瓦の近代化への流れ」『江戸遺跡研究会第 31 回大会 遺物にみる幕末・明治〔発表要旨〕』江戸遺跡研究会

熊本市 2022 『特別史跡熊本城跡総括報告書 調査研究編第 4 分冊』熊本市熊本城調査研究センター

熊本市教育委員会 1999 『特別史跡熊本城跡 石垣保存修理工事発掘調査報告書 西出丸（奉行丸） 二の丸御門跡・南大手門跡・南坂』

圭室諦成校訂 1960 「山本郡村誌」『肥後国郡村誌抄 中巻』熊本女子大学歴史学研究所

三城祥象・勇 知之 1981 「第四章第九節 植木町の教育と文化 豊岡小学校」『植木町史』植木町

美濃口紀子 2020 「熊本城の出土瓦編年試案」『特別史跡熊本城跡総括報告書 調査研究編第 2 分冊』熊本市熊本城調査研究センター

矢野和之 1977 「土山と目板瓦について」『重要文化財熊本城平櫓修理工事報告書』熊本市



北平古道出入口



調査検討委員会現地指導状況

第6表 北平古道調査地 出土遺物観察表

スナイドル薬莖 (第9図・第10図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	抽筒板	計測値(mm/g)			備考	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	抽筒板	計測値(mm/g)			備考
					現存長	径	重さ							現存長	径	重さ	
1	す1297	100	2b	鉄	13.0	17.0	5.3	1T	5	す1289	3	2b	鉄	8.5	17.0	5.0	
2	す1298	175	2b	鉄	12.0	17.0	4.4	1T	6	す1290	5	2b	鉄	8.0	17.0	4.2	
1	す1292	16	2b	鉄	8.0	17.0	4.6		7	す1293	22	2b	鉄	7.5	17.0	4.8	雷管室上部欠
2	す1295	71	2b	鉄	12.5	17.0	5.8		8	す1294	45	2b	鉄	10.0	17.0	3.8	底蓋に木片付着?
3	す1291	15	2b	鉄	11.0	17.0	4.7		9	す1296	99	2b	鉄	8.8	17.0	3.1	抽筒板欠
4	す1299	236	2b	鉄	7.5	17.0	4.6										

スナイドル銃弾 (第9図・第10図～第12図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圈溝			栓	腔綫	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			材/色	条	全長	
3	す1491	275	P4	4	丸	×	—	5	25.4	14.5	29.9	1T
4	す1493	277	P4	4	丸	×	—	5	26.0	14.4	31.1	1T
5	す1499	366	P4	4	丸	×	—	5	26.0	14.4	32.5	1T
6	す1412	97	P4	4	丸	×	—	5	23.2	18.4	32.0	1T
7	す1501	368	P4	4	丸	×	—	5	25.5	15.3	31.1	1T
8	す1503	377	P4	4	丸	×	—	5	25.4	15.3	31.4	1T
9	す1414	105	A1	2	鋸	×	—	5	27.0	14.8	26.7	1T, 弾頭木栓残存有
10	す1492	276	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	26.2	14.7	29.2	1T
11	ひ135	167	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	24.8	15.0	28.9	1T
12	う503	177	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	23.7	15.0	29.4	1T
13	す1502	369	A2	4	鋸	○	陶/灰	5	22.6	15.2	29.1	1T
14	す1498	357	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	24.8	15.1	29.6	1T
15	う502	176	A2	4	鋸	○	—	5	19.0	19.0	28.2	1T
16	ひ106	134	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	22.2	15.8	28.9	1T
17	ひ136	168	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	20.5	15.0	29.5	1T
18	す1494	278	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	21.9	20.7	29.6	1T
19	す1505	382	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	20.9	24.5	29.6	1T
20	う501	173	A2	4	鋸	×	—	5	12.0	33.0	25.3	1T
21	す1506	383	A2	4	鋸	○	—	5	11.5	32.9	27.0	1T
22	す1504	381	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	16.6	29.3	1T
23	す1496	334	A2	4	鋸	○	—	5	22.4	19.1	29.1	1T
24	す1508	401	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	20.5	16.8	28.0	1T
25	す1490	274	B	4	鋸	×	—	5	20.0	21.4	27.7	1T
26	す1497	350	B	4	鋸	×	—	5	24.3	16.5	28.7	1T
27	す1500	367	小片	4	—	—	—	不明	23.4	33.7	10.9	1T
28	ひ127	159	小片	1	—	—	—	不明	22.0	34.4	9.8	1T

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
1	ひ144	205	P2	4	丸・鋸?	×	—	5	26.0	15.6	32.7	重要, 刻印有㊸
2	す1400	83	P3	4	鋸	×	—	5	26.0	14.8	29.5	
3	う509	184	P3	4	鋸	×	—	5	27.0	14.8	29.6	
4	ひ133	165	P4	4	丸	×	—	5	25.2	14.4	29.5	
5	す1387	68	P4	4	丸	×	—	5	25.9	14.8	32.8	
6	ひ115	144	P4	4	丸	×	—	5	26.0	14.8	34.0	
7	う520	195	P4	4	丸	×	—	5	26.3	14.7	34.0	
8	す1413	98	P4	4	丸	×	—	5	26.8	14.6	34.2	
9	ひ147	208	P4	4	丸	×	—	5	25.4	14.9	33.1	
10	う523	198	P4	4	丸	×	—	不明	25.4	14.7	31.5	
11	す1392	76	P4	4	丸	×	—	5	25.0	14.8	32.0	
12	す1419	114	P4	4	丸	×	—	5	23.8	14.8	33.7	
13	う511	186	P4	4	丸	×	—	5	25.4	16.3	34.1	
14	ひ145	206	P4	4	丸	×	—	5	25.7	14.6	32.8	
15	す1355	33	P4	4	丸	×	—	5	25.6	14.8	32.1	
16	す1390	74	P4	4	丸	×	—	5	25.2	14.6	32.0	
17	す1373	54	P4	4	丸	×	木	5	25.5	15.0	31.7	木栓外れる
18	す1358	36	P4	4	丸	×	—	5	26.3	14.9	31.6	
19	ひ113	142	P4	4	丸	×	—	5	24.6	14.5	31.4	
20	ひ150	211	P4	4	丸	×	—	5	24.7	15.0	32.0	
21	す1426	122	P4	4	丸	×	木	5	24.0	15.0	32.0	木栓外れる
22	す1344	12	P4	4	丸	×	—	5	24.6	17.0	31.7	
23	う518	193	P4	4	丸	×	—	5	26.4	14.3	33.4	
24	ひ148	209	P4	4	丸	×	—	5	23.6	16.1	34.0	
25	す1455	220	P4	4	丸	×	—	5	25.3	17.3	32.2	
26	す1420	115	P4	4	丸	×	—	5	24.2	17.4	32.1	
27	す1411	95	A1	4	鋸	×	陶/茶	不明	27.3	14.7	30.8	弾頭木栓残存有, 弾頭木栓動く
28	ひ108	137	A1	4	鋸	×	—	不明	26.7	15.0	29.7	弾頭木栓残存有
29	す1482	254	A1	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	14.6	30.8	弾頭木栓残存有
30	す1470	242	A2	4	鋸	×	—	5	27.5	15.0	28.9	
31	す1485	260	A2	4	鋸	○	—	5	26.7	14.8	28.3	
32	す1356	34	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	27.0	14.7	29.9	
33	ひ151	212	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	25.9	14.8	29.6	
34	ひ121	152	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	21.0	14.6	28.7	
35	す1466	235	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	27.0	14.8	29.5	
36	う504	178	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	24.8	15.0	29.7	
37	す1382	62	A2	4	鋸	×	—	5	25.2	14.6	28.5	
38	ひ100	126	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.2	14.5	29.8	
39	す1405	88	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	22.3	17.9	29.2	
40	ひ130	162	A2	4	鋸	×	—	5	25.8	15.0	29.3	
41	す1495	293	A2	4	鋸	○	—	5	26.0	14.9	29.1	
42	ひ129	161	A2	4	鋸	○	—	5	25.0	15.0	29.0	
43	ひ99	125	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	23.5	15.0	29.7	
44	ひ117	148	A2	4	鋸	○	—	5	24.0	16.3	29.4	
45	す1427	123	A2	2	鋸	×	陶/茶	5	23.0	17.0	26.8	
46	ひ140	201	A2	4	鋸	×	—	5	23.9	15.0	31.1	刻印有㊸
47	ひ124	155	A2	4	鋸	×	—	不明	22.0	13.0	25.9	
48	す1398	81	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.2	14.8	29.9	
49	う508	183	A2	4	鋸	○	—	5	24.7	15.0	28.6	
50	う514	189	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	22.8	25.0	29.4	
51	す1425	120	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	24.0	14.8	29.6	
52	す1402	85	A2	4	鋸	×	木	5	24.3	16.5	32.2	木栓外れる, 木栓割れてる
53	ひ142	203	A2	4	鋸	×	—	5	25.2	14.8	29.1	
54	ひ123	154	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	23.3	14.6	29.4	
55	ひ98	124	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.5	15.0	29.6	
56	ひ141	202	A2	4	鋸	×	—	不明	23.5	17.0	29.2	
57	す1352	30	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	22.2	20.4	29.6	
58	ひ102	130	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	24.0	14.6	28.5	
59	ひ122	153	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	23.5	15.0	27.7	
60	す1421	116	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	24.6	14.8	29.1	
61	う510	185	A2	4	鋸	○	—	5	24.0	14.8	28.9	
62	う517	192	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	14.7	29.8	
63	す1468	239	A2	2	鋸	○	—	5	23.0	18.4	27.8	
64	う521	196	A2	4	鋸	○	—	5	23.2	18.8	29.0	
65	ひ137	172	A2	4	鋸	○	—	5	21.6	15.0	28.9	

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
66	す1416	107	A2	4	鋸	○	—	5	23.5	17.1	28.4	
67	す1481	253	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	23.2	17.6	29.1	
68	す1415	106	A2	4	鋸	×	—	5	23.6	14.8	28.6	
69	す1423	118	A2	4	鋸	○	陶/灰	5	24.0	14.8	28.4	
70	ひ134	166	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	22.6	14.6	30.1	
71	う515	190	A2	4	鋸	×	—	5	22.1	17.8	28.4	
72	す1409	93	A2	4	鋸	○	陶/灰	5	19.0	31.0	29.6	陶栓外れる
73	ひ105	133	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	14.8	21.2	28.6	
74	す1403	86	A2	2	鋸	×	—	5	20.2	24.6	26.8	
75	す1357	35	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	18.2	25.1	28.4	
76	ひ154	217	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	18.6	23.2	27.2	
77	す1372	52	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	16.5	24.0	28.6	
78	ひ143	204	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	16.8	26.8	25.9	
79	ひ110	139	A2	4	鋸	○	—	5	13.3	27.3	28.2	巻造り
80	ひ126	157	A2	4	鋸	○	—	5	26.7	14.8	28.9	
81	ひ139	200	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.6	15.0	30.0	
82	ひ146	207	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	27.0	15.8	30.0	
83	す1351	29	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	25.0	16.0	29.7	
84	す1353	31	A2	4	鋸	×	—	5	26.0	14.5	27.1	
85	す1377	59	A2	4	鋸	×	—	5	26.7	14.6	28.2	
86	す1362	40	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	21.7	20.2	28.8	
87	す1375	57	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.8	14.9	29.3	
88	す1345	14	A2	4	鋸	○	—	5	24.3	16.2	27.9	
89	す1488	266	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	23.0	22.0	27.9	
90	す1407	90	A2	4	鋸	×	—	5	22.4	21.0	26.6	
91	す1454	218	A2	4	鋸	×	—	5	22.8	18.3	28.2	
92	す1361	39	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	22.0	20.5	29.0	
93	す1399	82	A2	2	鋸	×	—	不明	20.4	25.3	27.5	
94	す1374	55	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	17.5	22.5	26.6	
95	す1486	262	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	16.1	24.3	29.7	
96	ひ112	140	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	11.6	31.6	28.8	
97	す1350	24	A2	4	鋸	×	—	5	10.6	46.0	28.1	
98	ひ128	160	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	14.2	27.1	29.2	
99	ひ103	131	A2	4	鋸	×	—	5	30.0	17.5	29.3	
100	す1463	232	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.7	14.4	30.2	
101	う522	197	A2	4	鋸	×	—	5	27.0	18.4	28.9	
102	う519	194	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.8	22.0	30.0	
103	す1386	67	A2	2	鋸	○	陶/茶	不明	23.8	17.6	28.2	
104	す1458	224	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	27.0	15.4	28.4	
105	す1460	228	A2	4	鋸	○	—	不明	28.4	15.5	26.8	
106	ひ149	210	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	23.2	22.5	30.2	
107	す1391	75	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	20.0	18.1	24.5	
108	す1401	84	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	23.0	15.3	29.3	
109	す1395	78	A2	4	鋸	×	—	5	19.6	24.8	28.7	
110	ひ107	136	A2	4	鋸	×	—	不明	27.0	21.5	27.6	
111	す1408	91	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	17.6	22.7	27.1	
112	す1393	77	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	20.7	24.8	26.3	
113	す1472	244	A2	4	鋸	○	—	5	24.8	18.8	28.9	
114	す1471	243	A2	4	鋸	×	—	5	22.5	16.4	30.7	
115	す1465	234	A2	4	鋸	×	—	5	24.1	19.2	27.9	
116	す1417	108	A2	4	鋸	×	—	5	25.8	19.0	29.0	
117	す1410	94	A2	4	鋸	○	—	5	21.3	19.5	28.3	
118	す1462	231	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	21.1	26.7	
119	す1349	21	A2	2	鋸	×	—	不明	21.0	21.5	24.7	新しい傷有
120	す1364	42	A2	1	鋸	×	—	不明	18.6	32.6	23.5	巻造り
121	ひ119	150	A2	4	鋸	×	—	不明	10.5	32.0	26.4	
122	す1389	72	A2	4	鋸	×	—	5	14.0	28.2	27.8	
123	す1424	119	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	19.0	27.0	28.7	
124	す1371	51	A2	4	鋸	×	—	不明	16.5	34.1	26.5	
125	す1406	89	A2	3	鋸	×	陶/茶	不明	20.6	26.5	27.2	
126	す1473	245	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	14.9	31.2	28.1	
127	す1469	240	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	17.8	37.1	23.5	
128	す1384	65	A2	4	鋸	○	陶/灰	5	26.5	30.0	28.7	
129	す1376	58	A2	4	鋸	×	—	5	13.3	26.5	28.8	
130	す1478	252	A2	3	鋸	×	—	5	13.5	31.0	25.4	

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
131	す1346	17	A2	4	鋸	×	—	不明	8.3	35.5	15.1	平たく潰れている
132	す1366	44	A2	3	鋸	×	陶/茶	不明	12.8	42.0	28.2	
133	す1342	4	A2	4	鋸	×	—	5	12.8	35.8	26.1	
134	す1359	37	A2	2	鋸	×	—	5	14.0	38.0	25.5	
135	す1354	32	A2	2	鋸	×	—	不明	10.6	46.0	24.9	巻造り
136	ひ120	151	A2	4	鋸	×	—	5	9.6	44.4	26.8	
137	ひ104	132	A2	4	鋸	×	—	5	10.6	51.3	25.1	
138	ひ132	164	A2	4	鋸	×	—	不明	11.8	52.6	27.1	
139	す1404	87	A2	3	鋸	×	—	不明	18.2	46.8	24.9	巻造り
140	ひ131	163	A2	4	鋸	×	—	不明	15.6	43.9	22.1	
141	ひ111	141	A2	4	鋸	○	—	不明	12.0	40.6	21.1	
142	す1489	267	A2	4	鋸	×	—	不明	18.5	45.0	19.0	
143	す1369	49	A2	4	鋸	○	—	不明	10.6	34.2	16.4	
144	す1365	43	A2	4	鋸	×	—	不明	18.5	33.2	10.3	
145	す1484	259	B	4	鋸	×	—	5	27.8	14.7	29.5	刻印有☉
146	す1363	41	B	4	鋸	×	陶/茶	5	25.7	14.8	30.0	
147	す1422	117	B	4	鋸	×	陶/茶	5	24.4	15.2	30.6	
148	う512	187	B	4	鋸	×	陶/灰	5	25.6	15.3	30.3	
149	ひ138	199	B	4	鋸	○	—	5	24.4	14.5	28.7	
150	ひ153	215	B	4	鋸	×	—	5	25.5	15.8	29.0	巻造り
151	す1370	50	B	4	鋸	×	—	5	25.2	14.4	27.8	
152	ひ118	149	B	4	鋸	×	陶/茶	5	20.9	17.2	28.5	
153	す1385	66	B	4	鋸	×	—	5	21.6	17.0	28.9	貫通
154	ひ125	156	B	4	鋸	×	—	5	21.0	21.0	25.5	
155	ひ116	145	B	4	鋸	×	—	5	18.0	29.8	27.8	
156	す1487	263	B	4	鋸	○	—	5	26.9	17.6	30.3	
157	す1457	223	B	4	鋸	×	—	5	27.4	16.2	28.6	刻印有⊗
158	ひ109	138	B	4	鋸	×	—	不明	27.4	18.4	28.1	
159	う516	191	B	4	鋸	×	—	5	25.7	17.0	28.4	
160	す1343	7	B	4	鋸	×	陶/茶	5	22.1	17.3	27.7	貫通
161	う507	182	B	4	鋸	○	—	5	26.3	17.0	29.8	
162	す1388	70	B	4	鋸	×	陶/茶	5	22.2	17.0	28.7	
163	す1396	79	B	4	鋸	×	—	5	16.2	26.5	28.9	
164	す1474	248	B	4	鋸	○	—	5	28.8	18.4	29.6	
165	ひ152	214	B	4	鋸	×	—	不明	29.4	26.1	18.4	平たく潰れている
166	う513	188	B	4	鋸	○	—	5	36.2	33.6	27.8	平たく潰れている
167	す1477	251	小片	4	—	—	—	不明	26.5	21.8	18.0	
168	う506	180	小片	4	—	—	—	不明	20.0	16.4	6.9	
169	す1347	18	小片	2	—	—	—	不明	27.0	25.3	10.4	平たく潰れている
170	う505	179	小片	4	—	—	—	不明	16.0	14.2	3.4	
171	す1483	256	小片	4	—	—	—	不明	16.6	37.9	11.2	
172	す1360	38	小片	4	—	○	—	不明	13.0	17.6	4.9	
173	す1368	48	小片	4	—	—	—	不明	13.0	20.5	6.2	
174	す1378	60	小片	4	—	—	—	不明	10.0	19.2	5.4	

エンフィールド銃弾 (第12図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
						全長	最大径	重さ	
175	す1459	227	a2	—	不明	15.7	14.3	20.6	キャスト弾, 発砲時変形度4, 中高タイプ(鉛不足)
176	す1461	230	a2	—	不明	31.5	15.9	30.0	キャスト弾, 発砲時変形度2, 中高タイプ(鉛不足)
177	す1383	64	b1	木	5	26.4	15.0	31.1	木栓外れる
178	す1476	250	b1	—	5	25.2	14.6	26.3	
179	す1456	222	b1	—	不明	28.0	17.6	32.3	
180	す1464	233	b1	—	4	27.8	20.2	33.4	

その他の銃弾・不明小片 (第9図・第12図)

挿図 No.	実測 No.	種類	取上 No.	圏溝		腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形		全長	最大径	重さ	
29	す1507	不明小片	394	—	—	不明	11.0	12.9	4.3	1T
30	ひ101	不明小片	129	—	—	不明	7.2	14.3	1.3	1T
181	ひ114	小径銃弾	143	4	鋸	不明	22.5	14.1	29.7	元はスナイデル銃弾, A2, 陶栓/茶
182	す1467	小径銃弾	237	4	鋸	5	28.2	13.9	29.2	元はスナイデル銃弾, B, 圏溝に刻目有
183	す1397	不明小片	80	—	—	不明	20.5	26.4	5.7	
184	す1475	不明小片	249	—	—	不明	20.0	30.4	14.8	平たく潰れている

砲弾 (第12図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値(mm/g)			備考	挿図 No.	実測 No.	遺物 No.	品名	計測値(mm/g)			備考
				縦	横	重さ						縦	横	重さ	
185	み12	246	霰弾子	12.2	10.8	8.8		186	す1572	229	不明	12.2	11.0	5.5	鉄製

鉄製品 (第9図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	長さ※mm (現存長)	重さ※g	備考	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	長さ※mm (現存長)	重さ※g	備考
1	す1689	393	ペグ	(61)	36.7	1T出土	2a	す1686	285	鉄鍋	(46)	7.8	1T出土, a・bは同一個体
							2b	す1687	96	鉄鍋	(52)	11.9	

その他の遺物—鉄製品 (第13図～第14図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	長さ※mm (残存長)	重さ※g	備考	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	長さ※mm (残存長)	重さ※g	備考
1	す1696	219	蹄鉄	117	234.5	幅124	12	す1692	257	楔	(33)	6.6	
2	す1681	261	蹄鉄	(117)	75.4		13	す1690	258	楔?	40	11.6	頭部長方形
3	す1695	216	蹄鉄	99	76.5	幅96	14	す1694	255	皆折釘	92	27.3	
4	す1674	47	鉈	187	60.9		15	す1697	104-1	和釘	(65)	13.8	
5	す1682	73	鑿?	(64)	18.4		16	す1698	104-2	和釘	(47)	6.9	
6	す1688	247	楔	74	37.6	頭部折り曲げ	17	す1680	225	不明鉄製品	43	30.1	幅(73)
7	す1678	181	楔	(35)	8.6		18	す1683	112	不明鉄製品	43	48.1	
8	す1691	238	楔	39	11.5	先端部二股状	19	す1699	113	不明鉄製品	38	13.7	縦(2.7)
9	す1685	241	楔	61	18.3	先端部丸い	20	す1684	109	不明鉄製品	(58)	13.6	
10	す1679	53	楔	(38)	7.3	先端部丸い	21	す1676	20-2	不明鉄製品	(82)	14.1	
11	す1693	226	楔	(47)	11.5		22	す1675	20-1	不明鉄製品	40	6.2	

その他の遺物—銭貨 (第14図)

挿図 No.	取上 No.	拓本 No.	銭種	年銘・初铸年	計測値(mm)			備考
					外径/内径	方孔縦/横	厚さa/b/c	
23	121	う609	寛永通宝(新寛永), 島屋銭	寛文期	25.8 / 19.4	5.0 / 5.1	1.2 / 1.2 / 1.1	背「文」, 左上位潰れ
24	146	う610	寛永通宝(新寛永), 旧享保十万坪銭	宝永4年以前	24.2 / 19.4	5.0 / 6.6	1.0 / 1.2 / 1.0	
25	102	う607	寛永通宝(新寛永), 丸屋銭	正徳期	25.5 / 18.8	5.4 / 5.6	1.2 / 1.0 / 1.3	
26	103	う608	寛永通宝(新寛永), 長崎銭	明和4年	23.4 / 18.8	5.2 / 5.2	1.2 / 1.2 / 1.3	背「長」
27	101	う606	文久永宝(草文)	文久3年	27.0 / 20.0	6.4 / 6.3	1.4 / 1.3 / 1.4	
28	69	う605	竜1銭銅貨	明治9年	直径28.0 厚さ1.4			
29	2	う599	桐1銭青銅貨	大正10年	直径22.7 厚さ1.3			一部破損

その他の遺物—土器・陶磁器類 (第14図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	焼成形態	器種	口径	底径	器高	備考
					※cm, ()内復元値			
30	す1569	414	須恵器	壺	—	—	—	荒尾産? (器表の色調は外面赤褐色・内面橙色味帯びる, 焼成良) 8c後半～9c初頭外: 肩部格子目タタキ後凸帯貼付後回転ナデ 内: 肩部回転ナデ
31	す1568	358	磁器染付	皿	—	—	—	肥前系 18c後半～20c初頭 蛇の目凹形高台 胎土: やや粗い, 灰色味帯びる 文様: 化学コバルト型紙摺り, 内底松竹梅円形 焼成技法: 高台内蛇の目軸剥ぎ
32	す1570	408	磁器染付	段重	(10.9)	(9.9)	3.7	肥前系 18c後半～20c初頭 文様: 化学コバルト型紙摺り, 捻文区画, 鳳凰・桐・獅子・花 焼成技法: 口縁部軸剥ぎ, 腰・高台部軸剥ぎ・アルミナ塗布

その他の遺物—石製品 (第14図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	石材	縦長×横長 ※mm, (残存長)	重さ ※g	備考
33	す1567	363	石板	粘板岩	(61)×(50)	18.2	1T出土

その他の遺物—銅製品・瓦ほか (第15図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値		挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値		
				長さ※mm, (残存長)	重さ※g					長さ※mm, (残存長)	重さ※g	
34	す1571	63	銅製釦	外径23.2, 高13.0 / 重さ4.1		41	す1564	289	軒瓦	瓦当厚44, 瓦当幅(81) / —		
35	み11	1	鉛弾	径9.6～9.8 / 重さ5.1						※平部瓦当: 唐草文, キラコ明瞭		
	※火縄銃1匁5分玉(井上流)か						42	す1565	361	軒瓦	瓦当厚46, 瓦当幅(95) / —	
36	ひ186	110	軒目板棧瓦	瓦当厚47, 目板部長134 / —		※平部瓦当: 右巴文(中心飾), 唐草文, キラコ明瞭						
	※瓦当: 丸部左巴文, 平部唐草文, 平部左に放射状のカキヤブリ残る						43	ひ191	342	平瓦or平部	縦(118), 横(193) / —	
37	ひ189	265	目板棧瓦	横(194), 目板部長181 / —		44	す1563	291	平瓦or平部	縦(143), 横(168) / —		
38	ひ187	147	目板棧瓦	縦(145), 横(204) / —		45	す1573	360	平瓦or平部	縦(126), 横(118) / —		
39	ひ185	110	目板棧瓦	縦(167), 横(133) / —		46	ひ190	316	丸瓦or棟瓦	縦(126), 横(119) / —		
	※平部破面(丸部との接合面)にカキヤブリ						47	す1566	399	袖瓦	高さ(75), 横(158) / —	
40	ひ188	273	目板棧瓦	横(117), 目板部長171 / —		48	ひ192	351	不明瓦(釘穴)	縦(63), 横(35) / —		